

# ふるさと米子 探検隊

第4号

淀江ってどんな町?の巻

2005年1月26日



## 淀江ってどんな町?

編/発行 米子市立図書館

TEL0859-22-2612 FAX0859-22-2637

<http://lib.yonago-city.jp/lib/>

平成17年3月31日、淀江町は米子市と合併して、新・米子市が誕生しました。ふるさと米子探検隊 第4号では、この合併を記念して特集号を作りました。タイトルは「淀江ってどんな町?」これまで淀江のことをよく知らなかった米子のみなさんには、淀江のことをもっと知つてもらうために、また、淀江に住むみなさんには、地域の魅力をもう一度確かめてもらうために、この特集号を作りました。

淀江は歴史の町です。とりわけ古代史の舞台としては、日本列島のなかでも特に重要な、すばらしい歴史を持つ町です。町のあちこちに、貴重な遺跡が数多くあります。また、〈サイノカミ〉や神幸神事など、古い伝承を大切に保存し、伝えて来た町でもあります。

さあ、みなさん、淀江の町の探検に出かけましょう！

## 探検隊の参考資料

図書館には、みんなの探検を助けてくれるたくさんの資料があります。

- ・ 「淀江町誌」 淀江町／編・刊 1985 Y223/Y7
- ・ 「淀江町合併50年記念誌 温故知新」 淀江町役場／編・刊 2004 Y31/Y4-5
- ・ 「海と山の王国 妻木晩田遺跡が問い合わせるもの」 佐古和枝／編  
「海と山の王国」刊行会 1999 Y223/S11-2
- ・ 「むきばんだ 弥生の王国」 鳥取県立博物館資料刊行会／編 鳥取県立博物館／刊  
2000 Y223/T8
- ・ 「上淀廃寺と彩色壁画概報」 淀江町教育委員会／編 吉川弘文館／刊  
1992 Y223/Y3-9
- ・ 「弥生時代からのメッセージ」 鳥取県教育委員会／編・刊 2003 Y20/T11-4
- ・ 「淀江町内歴史散歩 第1集～第3集」 淀江町中央公民館／編・刊  
1984 Y223/Y4

(資料名の後の数字と記号は「請求記号」です(ラベルの番号)。資料の配列場所を示しています。図書館にはこの他にもたくさんの資料があります。)

## 淀江の町のあゆみ

明治時代に、それまでの小さな村々が集まり、西伯郡淀江町、宇田川村、大和村となります  
→1955年（昭和30）淀江町+宇田川村+大和村+高麗村今津地区が合併、淀江町が誕生  
→2005年（平成17）淀江町+米子市が合併して新・米子市が誕生しました

## 壺瓶山の歴史

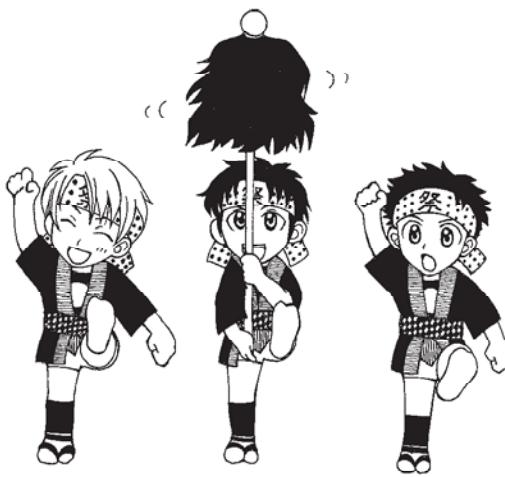
「坪上」とも「坪亀」とも書かれたりします。淀江の町の北西部にあるこの山は、米子方面から見ると、大きな亀が日本海に向かって泳ぎ出しそうな形に見えたりします。すそ野にひろがる古墳群や、鎌倉時代にあったといわれる小波城。江戸時代には農民一揆の集結地となり、また太平洋戦争時には戦争のための壕（兵士が隠れたり、物資を保管するための洞穴）が掘られたりもしました。壺瓶山の歴史は、そのまま淀江の歴史でもあります。現在の山上にある壺瓶山天文台では、田中善一さんが新彗星を発見されたこともあります。

## サイノカミってなんだろう



＜サイノカミ＞という言葉を聞いたことがありますか？  
むらざかい 村境に住んで、村の中に入つてこようとするいろいろな災い  
わざわ を防いでくださる神様です。道祖神ともいいます。場所によつ  
ふせ て信仰の形、神様（石像）の形が少しづつ違います。淀江の  
どうそしん じ 町には60体以上のサイノカミさんが祀つてあり、いまも大  
きなこころ 切にされています。大和公民館の向かい側にある亀甲神社は、  
やまと 9体ものサイノカミがあることで有名です。

## 日吉神社の神幸神事



壺瓶山の北東側、西原にある日吉神社の数多くの祭神の一つが、アメノサナメノ神です。淀江のさなめホールは、この祭神から付けられた名前です。毎年5月3日に行われる神幸神事は、無形文化財に指定されています。大行列を真似たこの神事は、大勢の人が神輿を担ぎ、見物客で賑わいます。「えんよーいやな、えんよいとまかせ、さささ、さあよいとまかせ」という掛け声から、「よいとまかせ」「しんじ」さんとも呼ばれ、親しまれているお祭りです。

## わがさ 和傘づくり

淀江の町で傘作りが始まったのは、江戸時代の1821年（文政4）、倉吉から淀江に来た倉吉屋周蔵という人が傘屋を始めてからのことだそうです。1881年（明治14）、津山から西金蔵という人が傘作りの指導者として招かれてから、産業として発達しました。大正時代には、製造業者71軒、年間生産量が17万本に達したといいますから、淀江の町の大きな産業だったことが分かります。昔の傘は竹と紙で作りました。淀江の海辺は砂浜が広く、傘を干すのに適していました。材料に使う良い竹が手に入りやすかつたことなどが傘産業を大きく発展させました。しかし、洋傘の普及によって、1950年代からはだんだん作る人も少なくなってしまいました。現在では「淀江傘伝承者の会」の皆さんによって、傘作りの技術が伝えられています。



## 淀江出身の有名人

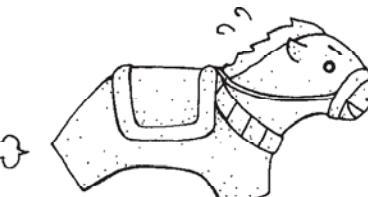
淀江地区の小学校は、1873年（明治6）に精明寺などを学舎にスタートしました。1883年（明治16）に完成した養良小学校新校舎は、一部3階建てで、当時他には見られないようなりつ



ぱな校舎だったといいます。明治時代、社会探訪記事を書いて活躍した松原岩五郎（慶応2年～昭和10年）、小泉八雲に英語を教わり詩人として活躍した高浜長江（明治4年～明治45年）、俳句や評論に活躍した綾木紅潮（明治26年～昭和43年）、きのこ博士といわれた四手井治太郎（明治18年～昭和38年）、独学で絵を学び洋画家として活躍した國頭繁次郎（大正5年～昭和44年）など、多くの文化人や経済人が淀江の町をふる里としています。

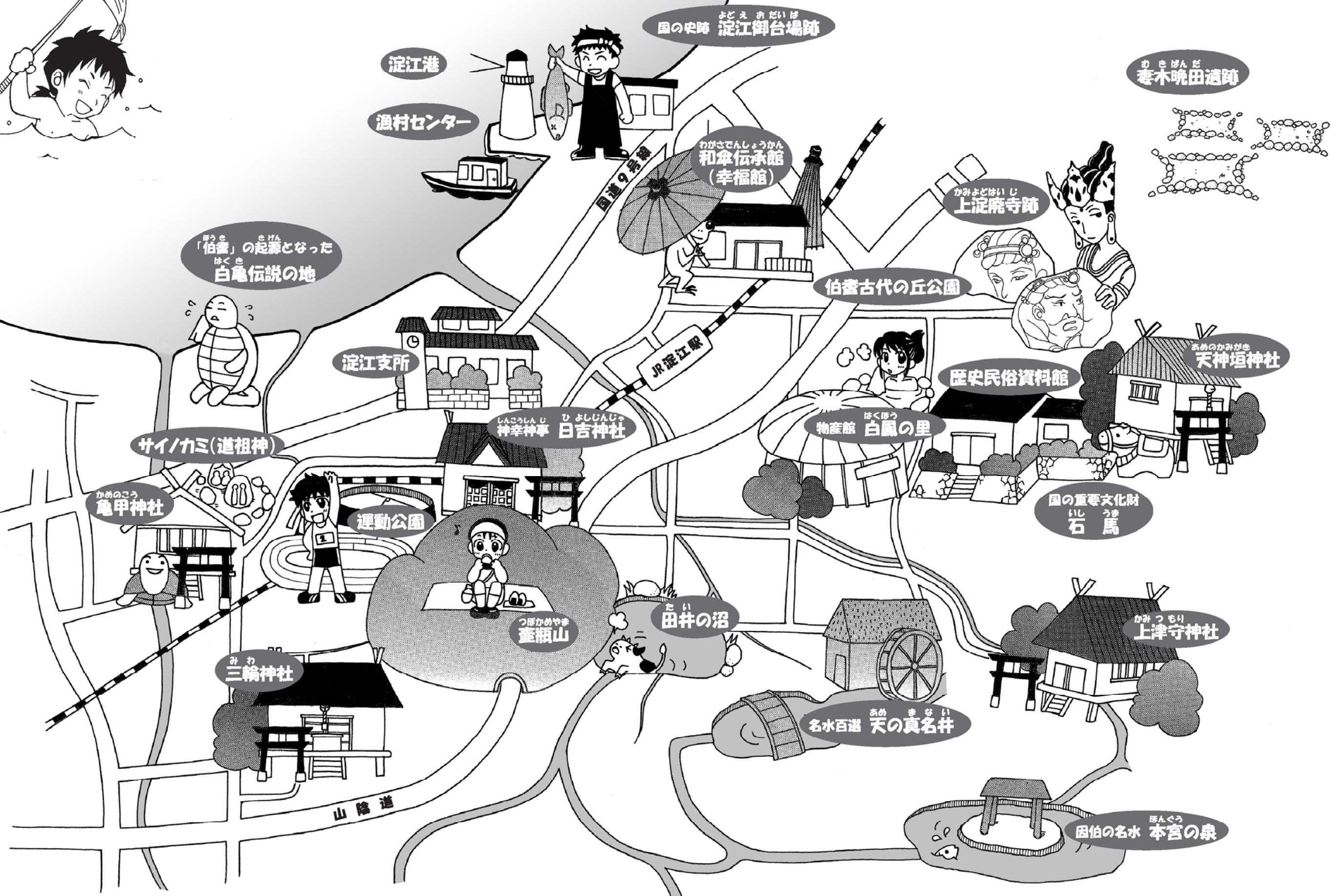
## 天の真名井と本宮の泉

淀江には二つの有名な湧水があります。高井谷にある天の真名井は、1986年（昭和61）環境省から「名水百選」に選ばされました。ここから流れ出る泉川の下流には多くの遺跡があります。また日本書紀や古事記という古い文献にも名前が出て来ることから、昔から暮らしの中で大切にされてきた泉であることが分かります。本宮の泉も1985年（昭和60）に、鳥取県から「因伯の名水」の指定を受けています。これらの名水は、新生代鮮新世（大山が火山活動を始める前の時代）の安山岩の間から湧き出していく、水質に優れていることで有名です。古くから田畠の灌漑（田畠に水を引くこと）はもちろん、淀江の特産品の清酒や醤油造りにも利用されてきました。





# 案内地図



# すごいぞ淀江の古代史探険！

● 旧石器時代	○ 小波や中西尾で、旧石器が見つかる
● 縄文時代	○ 鮎ヶ口遺跡で、九州で作られた縄文土器が見つかる ○ 井手跨遺跡で丸木舟と櫂、西日本では珍しい漆塗りの櫛や耳飾りなどが見つかる
● 弥生時代	○ 今津岸の上遺跡で、弥生時代前期のムラのまわりに濠をめぐらせた遺跡が見つかる ○ 妻木晚田遺跡、156ヘクタールにおよぶ日本最大の弥生遺跡
● 古墳時代	○ 角田遺跡で、港の風景を描いた土器が見つかる ○ 井手跨遺跡で、農具など、たくさんの木製品が見つかる ○ 向山古墳群 多くの前方後円墳が密集する淀江の「王墓群」
● 百鬼～奈良時代	○ 石馬谷古墳 全長61メートルの前方後円墳、九州以外では唯一の石馬を出土する ○ 井手狭古墳 直径27メートルの円墳、盾持ち武人など、多くの埴輪を出土する ○ 古墳時代は他に、晚田山古墳群、壺瓶山古墳群、百塚古墳群、中間古墳群などがあります
● 上淀廃寺	○ 日本最古の仏教壁画が見つかる

## 1 旧石器時代から縄文時代 渡り上り遺跡

昔々、人々は食料になる動物や植物を探し求めて、移動しながら暮らしていました。この時代の人たちは、石で作った道具を使っていたので、この時代のことは旧石器時代と呼ばれています。中西尾からは隠岐島でとれた黒曜石で作った石器が出土しています。

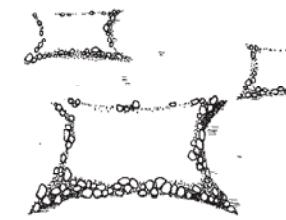
日本列島に住む人々は、12000年ぐらい前から、石器だけではなく土器も使うようになりました。土器の外側に縄目の模様があることから、この時代のことを縄文時代といいます。土器のおかげで煮炊きができるようになると、食べる量も増えて、人々はムラを作り、定住して暮らすようになりました。渡り上り遺跡（長いヤスなどの漁具）や鮎ヶ口遺跡（九州の縄文土器）、井手跨遺跡（丸木舟や櫂）がこの時代、縄文時代の遺跡です。



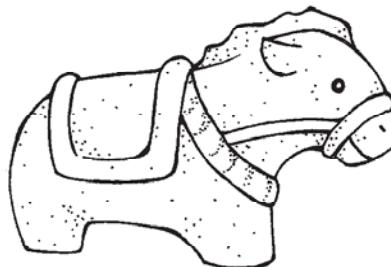
## 2 弥生時代と妻木晚田遺跡

今から二千数百年前、大陸から九州北部に水田稲作が伝わり、鉄器や青銅器などの新しい技術が次々と伝えられると、人々の暮らしは大きく変化しました。お米や鉄をたくさん持っているムラは地域の中心となり、大きなムラには王と呼ばれる人も現われました。この時代は弥生時代と呼ばれ、各地で勢力争いの戦争が始まりました。

妻木晚田遺跡は、わが国最大級の弥生時代の遺跡です。今の鳥取県西部にあったクニの「都」と考えられています。弥生時代のムラの遺跡は、平原にあるのが普通ですが、妻木晚田遺跡は山の上にあるのが特徴です。妻木晚田の有力者たちは、四隅突出墓という山陰独特のお墓を作りました。また、この遺跡からはたくさんの鉄器が発見されました。当時の鉄は貴重品で、妻木晚田の人々が進んだ技術を取り入れ、豊かな暮らしをしていたことが分かります。今津岸の上遺跡、角田遺跡、福岡遺跡もこの時代のものです。



## 3 古墳時代と向山古墳群



古墳は、大和の大王から、各地の有力者へと伝わっていきました。

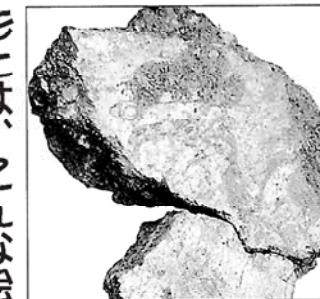
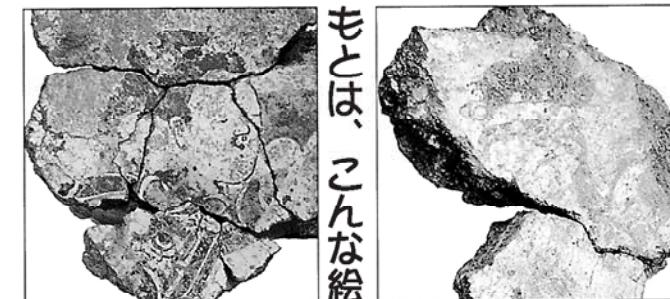
向山古墳群は6世紀を中心に築かれ、前方後円墳が8基あります。4号墳（長者ヶ平古墳）では、金銅製の冠などの豪華な副葬品が出ました。1号墳（国史跡・岩屋古墳）の横穴式石室は、高度な技術力を必要とするもので、当時の先進地であった朝鮮半島からの影響があると言われています。井手狭古墳の盾持ち人埴輪、石馬谷古墳の石馬などが特に有名です。



## 4 飛鳥・白鳳時代と上淀廃寺

7世紀になると大きな古墳はだんだん作られなくなりました。その代わりに、朝鮮半島から伝えられた仏教が広まり、全国にお寺が建てられるようになります。このころ、大陸文化の影響を受けて、本格的な国家造りが始めされました。

上淀廃寺は、7世紀の終わりに建てられたお寺の跡です。発掘調査によって、色とりどりのりっぱな仏教壁画が描かれていたことが分かりました。奈良の法隆寺と並んで、わが国ではもっとも古い時代の壁画だったと言われています。この事からも、大陸文化の進んだ文化が淀江にあったことがわかります。上淀廃寺は、残念なことに10世紀に火災にあい、埋もれてしまいました。



もとは、こんな絵でした



（古代史のページは、米子出身の考古学者 佐古和枝先生の  
編集された「探検！わたしたちの古代史」を参考にしました。）

# 出かけてみよう 淀江の町へ！（施設の紹介）



## ○米子市淀江歴史民俗資料館

淀江町福岡979-1 TEL 56-3316

開館時間／午前9時～午後5時

休館日／毎週水曜日

上淀廃寺跡から出土した白鳳時代の仏教壁画や、国的重要文化財「石馬」など、淀江町内から出土した多くの出土品が展示されています。



## ○白鳳の里 伯耆古代の丘公園

淀江町福岡1529 TEL 56-6817

開園時間／午前9時30分～午後5時

休園日／第2・第4水曜日

向山古墳群近くの整備された公園内には、高床建物、豎穴住居、古代体験の館、冒険広場などがあります。埴輪・土器作りなどの古代体験もできます（要予約）。



## ○白鳳の里 どんぐり館

淀江町福岡1548-1 TEL 56-6798

年中無休

レストランや物産館もあります。また、そば・杵つき餅・和傘の絵付けなどが体験できます。お隣には淀江ゆめ温泉もあります（午前10時～午後10時、第4水曜が休み）。



## ○妻木晚田遺跡

大山町妻木115-4 TEL 37-4000

鳥取県教育委員会事務局／妻木晚田遺跡事務所

開場時間／午前9時～午後5時

※12/29～1/3がお休み

淀江町と大山町にまたがる弥生時代の大集落跡。国指定史跡。

ボランティアガイドの解説付きで、遺跡案内もあります。



## ○和傘伝承館(幸福館)

淀江町淀江796 TEL 56-6176

開館時間／午前9時～午後5時

休館日／毎週日曜日

日傘、踊傘、番傘、蛇の目傘などを注文して作ってもらうこともできます。



(イラストは難波康子さん)